

【件名】	善福寺川整備工事（その206）その2	【事務所名】	第三建設事務所	
【工事場所】	東京都杉並区成田西三丁目地内から同区成田西四丁目地内まで	【受注者名】	名工建設株式会社	
【工期】	令和6年3月18日から令和8年3月13日まで	【主たる技術者名】	長谷川 孝家	

【工事概要】

本工事は、荒川水系の一级河川善福寺川の西田橋上流区間において、前工事で設置した仮栈橋の撤去、既設高水敷の取壊しを行い、大型ブロック積護岸を構築する工事である。

【表彰理由】（※発注者側評価）

善福寺川の本工事区間は、短時間で急激に水位上昇する区間であるが、受注者は現場状況をよく理解し、冠水時に手戻りとならないよう護岸基礎ブロックに二次製品の活用を提案し、施工するなど工程短縮を図り、高い技術力を発揮した。実際に本工事では計10回の冠水が発生したものの、仮締切内の清掃・復旧に要する時間が抑えられ、全体工程の短縮に繋がった。また、施工箇所が公園広場と隣接していることから、ヤード内に多数のボールが頻繁に入ったが、返却について掲示による広報を行うなど、丁寧な対応を行った。さらには、約200名の来場がある河川愛護月間行事にて開設した、バックホウ操作体験ブースは来場者から好評であり、建設業の魅力発信にも大きく貢献した。



施工前



施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

善福寺川の急激な増水リスクに対し、水位監視と気象情報を踏まえた施工管理を行い、増水後の復旧作業も含め安全確保に苦労しました。

◇ 特に工夫した点

護岸は曲線での大型ブロック積施工であり、精度と美観に注意しました。事前に割付図よりブロックの間隔を定め、施工中は3Dデータよりブロック1個ずつの精度を確認

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

多くの工事関係者と連携し一体となって構造物を完成させ、工事に伴い近隣へ影響が生じる中で配慮を行いながら進めることができ、大きな達成感を得ました。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

建設業は社会インフラを支える重要な仕事であり、多くの工事関係者と協同しながら形に残る成果をつくる大きなやりがいのある業界です。

